

## 東京区部と多摩のごみ排出量はどのくらい減少したか

田中 充（法政大学）

ごみ排出量の状況は、東京区部と多摩地区では大きく異なっている。

まず区部についてみると、2012年度の区ごとの排出総量では、最も排出量が多いのは世田谷区(人口86万人)の22万0千トン、次いで練馬区(71万人)の17万6千トン、大田区(70万人)の16万3千トンであり、人口の大きな区はごみ排出量も大きい傾向にある。これと比較するため2000年度の排出量をみると、足立区は38万1千トンと最大で、次いで世田谷区32万0千トン、江戸川区30万3千トンの順である。この間に、足立区は排出量22万5千トンを減らし、豊島区は16万6千トン、江戸川区は14万5千トンと、大幅に削減している状況がみて取れる。足立一区の削減量は、実に現在の世田谷区排出量分に相当する。また、23区全体では2000年度の384万6千トンから233万8千トンと、12年間に160万7千トンを減少させており、ごみ問題の改善に大きく寄与していることが分かる。

ごみ排出総量は、地域の人口や地域特性などによって大きく左右される。そこで、23区の1人1日当たりごみ排出量を見てみよう。2012年度の1人1日当たり排出量が最も大きいのは千代田区1,059g/日人であり、次いで中央区899g/日人、渋谷区849g/日人となっている。いずれも大きな事務所や業務ビル、飲食店等が密集する都心であり、居住人口は少ない地区である。反対に1人1日当たり排出量が少ないのは、荒川区622g/日人、中野区625g/日人などがあり、最大の千代田区に比べると約59%の水準である。また、2000年度から2012年度にかけて1人1日当たり排出量の推移をみると、千代田区と中央区の1人1日当たりの削減量が各々5,477g/日人、3,193g/日人と際立って大きく、次いで豊島区1,886g/日人の減となっている。

これらの背景には、一般ごみに混入している業務系のごみ排出量が大きく抑制されたためと推測される。また、23区をみた場合、ごみ排出総量の削減では住宅系の足立区や江戸川区における取り組みが進展

して大きな実績を上げているが、1人1日当たり排出量では都心区の千代田区や中央区、繁華街を抱える豊島区が続いていることが分かる。

一方、多摩地区では、2012年度の年間排出総量は、八王子市(56万人)の16万1千トン、町田市(43万人)の11万7千トン、府中市(25万人)5万9千トンの順である。やはり人口の大小に応じて排出量は異なるが、全体的に区部に比べると排出量は少ない状況にある。これを2000年度からの12年間の排出量の削減状況に照らしてみると、八王子市3万4千トン、町田市2万2千トン、府中市1万8千トンの減少量となっている。

次に多摩地区の1人1日当たりごみ排出量を見てみよう。2012年度の1人1日当たりごみ排出量が最も大きいのは、武蔵野市863g/日人、次いで羽村市814g/日人、立川市803g/日人である。反対に1人1日当たり排出量が少ない市は、小金井市602g/日人、府中市647g/日人、清瀬市652g/日人などがある。1人1日排出量が最大の武蔵野市に比べると、最小の小金井市は約70%の水準である。また、2000年度から2012年度にかけて1人1日当たり排出量の削減は、日野市309g/日人、立川市284g/日人、町田市256g/日人という減少量となっている。

東京のごみ排出量の全体的な状況を俯瞰すると、多摩地区は、区部に比べて総体的にはごみ排出総量は少ないものの、ここ12年間の排出量の削減割合は、区部の方が相当に大きく減少している。また、住民1人1日当たり排出量をみると、多摩26市平均731g/日人であるのに対し、区部平均718g/日人であり、区部の方が小さくなっている点も注目される。これらは、区部におけるごみ減量施策やリサイクル施策は着実に進展しており、ごみ排出量の実態はこうした減量化施策の結果であると推測できる。

図1 東京区部の1人1日当たりごみ排出量

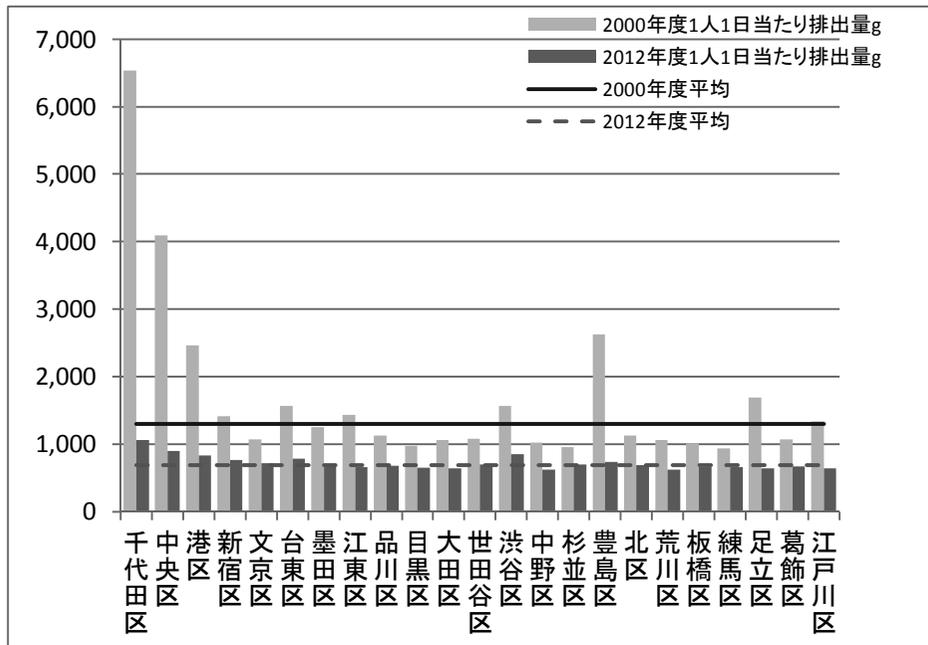


図2 多摩26市の1人1日当たりごみ排出量

